

児童が伝統の踊りを継承

二小 夢蛭音頭

2月1日、南関第二小学校(古川浩美校長)の4年生16人が久重北公民館で、地域サロンの参加者に地域の伝統の踊り「夢蛭音頭」を披露しました。環境教育の一環として蛭について学習する同校の提案で、約30年前に地域の蛭祭りでは踊られていた夢蛭音頭を毎年4年生が学習。12月に地域の人から振り付けを教わり熱心に練習した成果を、ホテルの動きや琵琶瀬川の流れを忠実に表現しながら堂々と披露しました。また、振り付けを考案した堀愛子さんも一緒に参加して踊り、見守ったサロンの参加者から大きな拍手が送られました。踊りを披露した後は、地域の人とカルタやあやとり、お手玉など昔ながらの遊びを楽しみ、交流を深めました。

夢蛭音頭は2月に同校の学習発表会でも披露しました。また、3月の陶器・梅まつりでも発表します。



▲夢蛭音頭を披露する児童 ▲交流会の様子



地域と環境活動の輪を広げる

二小 環境美化教育優良校等表彰

南関第二小学校(古川浩美校長)は、地域と連携して環境美化に取り組む全国の小中学校から選ばれる「環境美化教育優良校等表彰」の優秀校に輝きました。同校では60年以上にわたり地域住民と資源回収活動を行うほか、地元企業などと連携してホテルの飼育・放流活動に取り組んでおり、地域と連携しながら環境美化に取り組む姿勢が評価されました。主催は食品容器環境美化協会が都道府県が推薦した全国38校の中から6校が優秀校に選ばれます。2月6日に、同校体育館で表彰式が行われ、同協会から代表で6年生の木村瑠偉さんが賞状を受け取りました。木村さんは「これまで取り組んできた活動が実を結び表彰されてうれしい。自然の大切さや町のすばらしさを実感した。これからもこの経験を広めていろいろな人に知ってもらいたい」と話しました。



▲劇を披露する児童

児童が北原白秋を演じる

一小 学習発表会

2月10日、南関第一小学校(唐津智彦校長)で全校児童が学習の成果を披露する催しが開かれ、町ゆかりの詩人「北原白秋」の生涯を描いた劇や総合的な学習の時間での学びの発表を行いました。劇は昨年度町内の全児童に贈られた「北原白秋物語～二つの故郷～」のマンガ本をもとに脚本を書き、当時の背景に合わせながら先生や子どもたちが演出を考案しました。物語の幕間に歌や踊り、オリジナル寸劇などを交えて元気よく表現し、会場からは大きな拍手が送られました。



▲三小で行った租税教室の様子

税金ってなんだろう?

租税教室

玉名地区租税教育推進協議会(浦部真会長)では、次代を担う児童・生徒の皆さんに、税の意義や役割を正しく理解してもらうために、毎年租税教室を開催しています。今年度も役場税務住民課の職員や玉名税務署職員が町内小学校4校を訪問し、租税に関する授業を行いました。授業ではマグネットシートやDVD等を活用し、税金の使い道や税金がなくなると自分たちの生活にどう影響するのか等を学びました。また、税金が使われているもの、使われていないものの選別や1億円の大きさや重さを感じてもらったため1億円のレプリカを持たせ、児童はその重さに驚いていました。

あなたとマルシェ ～想いを伝えるバレンタイン～

2月11日、南の関うから館でバレンタインマルシェが開催されました。会場では小物やお菓子づくりのワークショップが催されたほか、雑貨やスイーツ、キッチンカーなど約20店舗が集まり、来場者は家族や友達とほっこりしたひとときを過ごしました。



▲中学生が考案したバレンタインフォトスポット

いす-1GP結果

- 第1位 木津川運輸(京都府) 111周
- 第2位 ホワイトロックス椅子職団(大分県) .. 104周
- 第3位 鶴崎商工青年部 紅鶴(大分県) 96周



マルシェを楽しむ来場者

人権について考える一日を

南関町人権フェスティバル

2月4日、南関町人権フェスティバル実行委員会(谷口慶志郎会長)は「第28回南関町人権フェスティバル2024」を南の関うから館で開催し、人権啓発のポスター展示や各団体の発表を通じて、来場者に人権意識の高揚を呼び掛けました。同フェスティバルは、南関町民憲章で「いたわり、助け合い、思いやりのあるやさしい町をつくりまします」と謳っていることから、心をつなぐ人権の町を目指し開催しています。会場には町内の小・中学生が描いた人権啓発のポスターが展示されたほか、また、ステージでは保育園児、小中学生、さまざまな解放子ども会が人権に関するテーマで発表を行い、熱い思いを伝えました。また、講演会では宮内太鼓店の宮内礼治さんが「誇りをもって生きる」をテーマに、太鼓づくりを実演しながら熱い講演を行いました。



▲四小の発表の様子



▲太鼓を制作しながら講演する宮内さん



▶JAたまな女性部の古郷さん(左)、谷口教育長(右) 手作り味噌贈(中央)

地元産手作り味噌の味楽しんで

小・中学生へ手作り味噌を寄贈

2月15日、JAたまな女性部(岩見利美部長)が谷口教育長を訪れ、地元食材を使用し手作りした味噌13kgを寄贈しました。同部会では、食農教育や地産地消の推進を目指して、毎年手作り味噌をJAたまな管内の小・中学校に贈っています。同部会南関郷支部の古郷さんは「地元産の大豆を使った味噌で香りもよく食べやすく仕上がっている。本物の味を知ることで地元食材への関心を高め、農業への興味を持つきっかけにもなれば」と話しました。贈呈を受けた谷口教育長は「日本の伝統食である手作り味噌の味をぜひ子どもたちに楽しんでほしい」と感謝を述べました。寄贈された味噌は、給食センターで調理された後、各学校の子どもたちにみそ汁などとして届けられます。